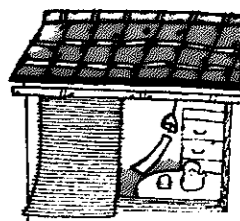


市民談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていること、お書きになって気軽に寄ってください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一―二 白根市大字白根二三五 白根市役所企画課広報広聴係です。



市民文芸

俳句

松嶋の絵から風湧く扇かな
大旗 豊治
蚊帳に入り孫をあやす胸の上
玉木 長吉

川柳

カラオケで心を癒す平社員
織田 セツ
酒よりもマイクが好きで行く酒場
渡辺 ミヨ
カラオケが早寝した子の夢破る
野内熊太郎
カラオケで知った上手な嫁の唄
佐藤トミノ
尻が地につかない今日はポータス日
佐藤 ヨキ
結婚の旅いそいと子の奢り
早川 英男
味噌汁に妻の誠が溶けている
田村 恒夫
脳味噌を洗濯したい物忘れ
竹石 基五
いつまでも母の乳房と味噌の味
田中 成子
よこしまな富には住めぬ青い鳥
花岡 増男
孤独慕情母の素顔が虹となる
吉川 末吉
欲望の喉から伸びてくる右手
岡村 清

小さな親切

一人一人の親切心から明るい社会を

吉田幸枝さん (下茨・主婦・47歳)

「小さな親切」という言葉には、無理のない、飾りのない、なんとも表現のできないニュアンスがあります。
ある日「小さな親切」という活字を見たとき、温かい血が体

の中を通るのを覚えました。現代社会では、物質的な不足はあまり見当たらなくなりましたが、精神的に満たされないことが多くなり、それは人間関係に起因しているように思われます。

住みよいまちから魅力あるまちへ

齊藤正実さん (南新町・教員・52歳)

白根市に住むようになって、二十年たった。佐渡から出てきて、燕(妻の勤め先)にしようか、白根にしようか迷ったものだが、「白根は住みやすいよ」という勧めもあって、桜町に住むことにした。
事実、新鮮な野菜、おいしい果物、のどかな自然、治安のよさ、そして、なによりも近所の人たちの人情味あふれる心配りが、私どもの期待を裏切らなかった。



明るい社会づくりに子供たちも積極づくり (59年・根岸小学校で)

商品投機機の電話に使う

あきれれるセールスマンの嫌がらせ

鷲尾カズさん (砂押一・主婦・56歳)

先日の午後三時ごろだった。電話のベルが鳴り、息子が応対に出た。話が終わって、息子が「〇〇商品からだ。よく電話をよこすところだ」と言い終わらないうちに、また電話のベル。今度は私が受話機を耳にする

その後、一時間おきに電話がかかってきた。いよいよ今夜は嫌がらせの電話で安眠妨害されるのかと、だんだん恐ろしくなってきた。しかし、さすがに九時ごろを境に、電話はこなくなつた。

私が生まれ育ったところでは、昔、役場に通つたところ、毎月、各村々で事務研修会を開き、交流を深めたことは、私にとって生涯忘れられない行事です。今でも昔の親友、知人が懐かしく、昔を繰り返し思い出します。

わが郷土「白根」

白根市が永久に栄えるように

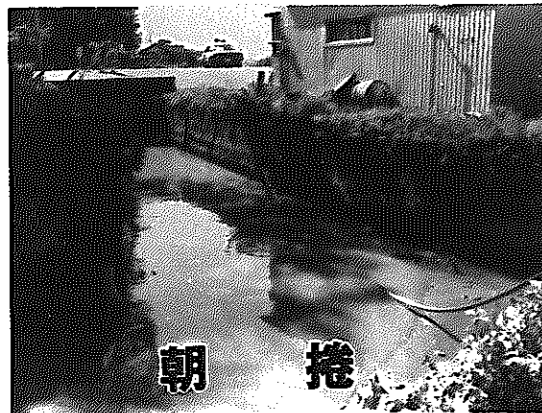
知野堅太郎さん (新飯田下町・無職・77歳)

白根郷は信濃川と中ノ口川に囲まれ、昔から「白根郷十か町村」と新潟県下でも有名でした。すべての環境に恵まれ、果物、野菜などの農産物が豊富で、世間

「ホームヘルパーさんに感謝(八十歳・男性)」と「白根郷に思う」の原稿をお寄せいただいた人の名前がわかりません。投稿された人は広報広聴係(☎②九七)へご連絡ください。また、匿名による投稿はご遠慮ください。

短歌

供るる花カスミ草もらい来て
くりやに挿せば密蜂の訪ふ
青春の想い懐し友の顔
若き命は国に捧し
大野タケノ



朝捲
せきのあった諏訪神社付近

洪水でせきが捲られ 多大な被害

私の思い出 昔のわが街



語る人
滝沢憲爾さん
(朝捲・61歳)

私の部落名は、朝捲と言う字名です。ちょっとエッチな変な字名ですねと、ときおりそんな話を聞きます。

昔、江戸時代以来、100回を超す洪水に見舞われた信濃川をはじめ、河川は氾濫日本一とされたこの地で、わが部落も事あるごとに洪水に襲われました。

子供、女まで部落総出で、必死に農作物を水から守るせきを作り、今度はだいたいぶと思つて翌朝行ってみると、そのせきはみごとに捲られ、農作物に多大な被害を与えた……。そんな由来で字名が出来たと、子供のころに聞いたことがあります。

祖先たちは、こうした厳しい自然条件が招いた貧困と、常に隣り合わせに生きてきました。

越後人は辛抱強く、引っ込み思案のように見える物の考え方は保守的で、人情味豊かであると言われてはいますが、それらはけっきょく、越後の風土から生まれたものと信じ、また誇りに思っています。